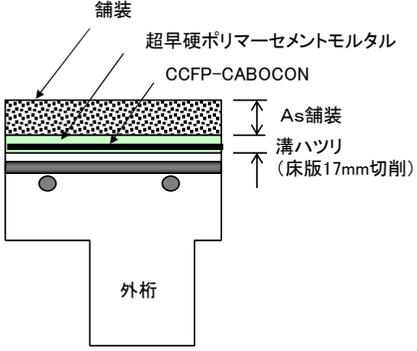
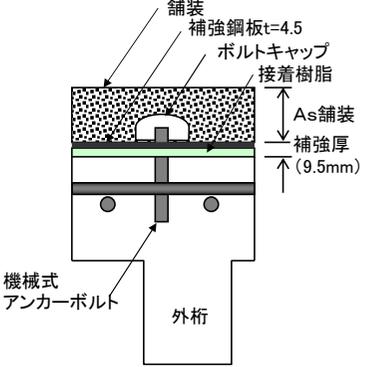
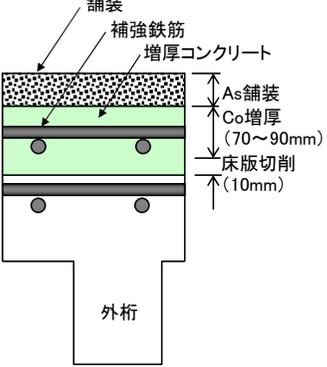


床版張出部補強工法比較表

工法	炭素繊維集成板 (CABOCON) 工法	鋼板接着工法	鉄筋補強増厚工法
概要図			
工法概要	<p>コンクリートを幅70mm深さ17mm程度溝ハツリした床版上部にエポキシ樹脂接着剤によりCCFP-CABOCONを接着した後、超早硬ポリマーセメントモルタルで溝部を埋め戻す構造。 張出床版上面の引張力に対する補強をCCFP-CABOCONにて行う。</p>	<p>床版コンクリート上面に部にアンカーボルトを用いて補強鋼板を取り付けた後、エポキシ樹脂接着剤を注入し一体化を図る構造。 張出床版上面の引張力に対する補強を鋼板 (t=4.5mm) で行う。</p>	<p>コンクリートを10mm程度切削した床版上部に補強鉄筋を配筋した後、コンクリートで増厚した構造。 張出床版上面の引張力に対する補強を鉄筋で行う。</p>
適用性	<ul style="list-style-type: none"> <li>CCFP-CABOCONが軽量であるため施工が容易。</li> <li>補強後の断面増加がなく、路面高の変更を要しない。</li> <li>死荷重の増加がなく、主構造への影響がない。</li> <li>補強後、更に耐力が要求される場合の追加補強が可能。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>補強後の断面増加は少ないが、舗装と鋼板の付着が悪い ことから舗装がはく離する事がある。</li> <li>死荷重が若干増加する。</li> <li>鋼板の防錆対策が必要。</li> <li>アンカーボルトが露出し走行に支障が出る場合がある。</li> <li>舗装に亀裂発生する可能性が非常に高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>補強後の断面増加が大きく、路面高の変更を要する。</li> <li>路面高変更に伴う付帯工事が生じる。</li> <li>死荷重が若干増加する。</li> <li>増厚コンクリートと既設コンクリートの付着確認が困難。</li> </ul>
	○	△	△
施工性	○	△	△
工期	<ul style="list-style-type: none"> <li>施工が容易であるため、工期超短縮が可能。</li> <li>積層枚数が増加しても工程に大きな影響はない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施工が容易であるため、工期超短縮が可能。</li> <li>積層枚数が増加すると工程が比例的に延びる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既設RC床版面などハツリや、新設コンクリートの打設等、大掛かりな作業が必要となり工期が長い。</li> </ul>
直接工事費	<p>¥40,000/m<sup>2</sup> (Type-S 50×1.2mm@500)</p>	<p>¥70,000/m<sup>2</sup></p>	<p>¥60,000/m<sup>2</sup></p>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>路面高に対する影響がない</li> <li>補強後、更に耐力が要求される場合の追加補強が可能。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>路面高に対する検討が必要</li> <li>死荷重が若干増加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>路面高の変更が必要</li> <li>取り付け道路においても変更が必要</li> <li>増厚コンクリートと既設コンクリートの付着確認が困難。</li> </ul>
	◎	△	△